

戦国自衛隊1549

2005(平成17)年4月13日鑑賞〈東宝試写室〉

★★★★



監督＝手塚昌明／原作＝福井晴敏／出演＝江口洋介／鈴木京香／鹿賀丈史／北村一輝／伊武雅刀／綾瀬はるか／生瀬勝久／嶋大輔／宅麻伸／中尾明慶（東宝配給／2005年日本映画／119分）

……タイムスリップしたのは戦国時代。そこで武田勢と対決する自衛隊……。薬師丸ひろ子が印象に残る何とも奇想天外なストーリーが登場したのは、角川映画黄金期の1979年。その26年後に生まれた福井晴敏原作による平成版『戦国自衛隊』は、自衛隊の全面協力の下につくられたのが大きな特徴。よくできたエンターテインメント性を楽しむのもよいが、織田信長とともに(?)平成ニッポンを、そして「戦後60年」を考える格好の素材としたいもの……。

『戦国自衛隊』のいまむかし……

かつて角川映画の全盛期には、その第1弾『犬神家の一族』（76年）に続いて『人間の証明』（77年）や『野性の証明』（78年）等が次々と生まれた。そして『戦国自衛隊』が生まれたのが1979年。

あの、まん丸い薬師丸ひろ子の顔が何とも印象的だったが、その後彼女は一躍大スターに。私はこの原版(?)『戦国自衛隊』はテレビでしか観ていないが、タイムスリップした自衛隊が武田勢と戦うという奇想天外なストーリーがバカ受けしたのはよくわかる。

1979(昭和54)年当時の昭和ニッポンは、高度経済成長という言葉を忘れるほどモノに恵まれた豊かな社会。さらにまた飽食の時代となっていた。そして1980年代後半の土地バブルの絶頂期においては、日本はハワイやオーストラリアの土地まで買いに走ったもの。しかし土地バブルが崩壊するや、日本は「失われた10

年」を迎え、現在やっとデフレ不況から脱したものの、その行方は???

原版『戦国自衛隊』から四半世紀を経た今、新たに同じ発想でそのパートⅡ(?)が福井晴敏の手によって小説となり、それがまた同じく新生角川映画の第1弾として製作されたことは興味深い。さて、パートⅡのサブタイトルとなっている1549年の登場人物は誰……?

福井晴敏原作の映画化は本年第2弾!

戦後60年の今年は、若手人気作家である福井晴敏の当たり年……? 既に公開され大人気を博した『ローレライ』に続く第2弾が、6月公開のこの『戦国自衛隊1549』。続く第3弾『亡国のイージス』もすぐそこに……。この3本の映画(小説)が描くテーマは、「戦後60年」であり、現在の平成ニッポンのあり方とその未来を考えるに格好のもの。

映画の中である人物は「自分の身を守る術すら忘れた平成人のために、俺は殉ずるつもりはない!」と叫び、またこの映画の主人公は「こんな世界、消えてしまえばいい」と叫んでいたが……?

なぜ、1549年?

関ヶ原の戦いが西暦1600年だということは誰でも知っている知識。しかし織田信長が今川義元を破った桶狭間の戦いは西暦何年か?と聞かれて、西暦1560年と答えられる人は少ないはず。福井晴敏が描く『戦国自衛隊1549』は実は織田信長が一方の主人公。しかし1534年生まれの信長は西暦1549年においてはまだ15歳。それではちょっと物語は組み立てにくいのでは……? 小説はそして映画はなぜ1549年にスポットをあてたのだろうか?

パートⅡは司馬遼太郎の戦国モノ小説の宝庫……?

原版『戦国自衛隊』に比べると、パートⅡにおいては歴史上の登場人物が多彩。そしてハチャメチャなようでまとまっており、まとまっているようでやはりハチャメチャ……? まずは、斎藤道三(伊武雅刀)と織田信長(鹿賀丈史)との出会いやその力関係が面白い。そして道三の娘濃姫(綾瀬はるか)と信長との結婚

は『国盗り物語』等で有名なもので、これがパートⅡの基本。

他方変形バージョン(?)は、道三の家臣でストーリー全般において大きな役割を果たす飯沼七兵衛(北村一輝)、そして13歳の少年、藤介(中尾明慶)。この藤介は何と蜂須賀小六(宅麻伸)の子供だそう。そしてこの2人は歴史の転換期において大きな役割を果たすことに……。さらに柴田勝家や佐久間信盛もチョイ役(?)として登場する。

このように司馬遼太郎の戦国モノ小説が大スキな人には、こたえられない人物のラインアップ……。

主人公は？

おっと重要なことを忘れていた。この映画の主人公は元自衛官だったが、既に自衛隊をやめ2005年の今は無目的に居酒屋の雇われ店長として働いている鹿島勇祐(江口洋介)。鹿島が自衛隊をやめたのは、尊敬していた上司的場毅(鹿賀丈史)が指揮していたFユニットが政治的な事情によって解散させられたため。

Fユニット解散後も自衛隊に残って重要な任務を果たしていた的場一佐は、2003年に行われた人工磁場発生器の実験部隊の隊長だった。しかしそれを担当していた神崎怜二尉(鈴木京香)の判断ミスによって暴走事故が発生し、460年前の戦国時代にタイムスリップしてしまった。

その的場を救い出すための部隊がロメオ隊。事故時と同じ「時空震」を発生させて意図的に戦国時代にタイムスリップし、また戻ってくるという危険極まりない作戦だ。制限時間は74時間26分。

神崎の懇願にもかかわらず、鹿島は「こんな世界、消えてしまえばいい」と吐き捨て、協力を拒否！しかしその後戦国時代から平成ニッポンの時代にタイムスリップしてきた飯沼七兵衛の言葉に刺激を受けた鹿島は……？

かくして森三佐(生瀬勝久)を隊長とするロメオ隊は、平成時代ニッポンから戦国時代ニッポンへとタイムスリップしたが……？

的場=信長が目指したものは？

かつてFユニットを指揮していた的場は、鹿島からも神崎二尉からも尊敬を集

めていた人物だった。そんな優秀な人物だったの場はタイムスリップした1549年においても、しっかりと自己が置かれた現実を直視する能力をもっていた。そんな的場が出した結論は、自衛官を捨て、下克上の戦国時代における強いものが生き残るという原則にのっとり強く生き抜くということだった。このように方針を定めた的場は強力な武器を駆使して生き残った部下とともにホンモノの織田信長を倒し、自らが信長となった。その強大な力を知った知恵者の斎藤道三は信長と同盟を結び、今や信長は戦国最強の武将となっていた。

そんな的場（信長）にやっと出会えた鹿島や神崎そして森三佐らロメオ隊は、なぜ的場が自分たちを攻撃してくるのかと詰めよった。しかし的場は逆に鹿島らに対して「俺に従え」と命令。そして今や野望あふれる信長になりきった的場がやろうとしたことは……？

それはいかにも絶対的な権力を握った知恵者が考えつきそうな壮大な歴史上の大実験だったが……？

任務とはいえ鈴木京香はもったいない……？

この男性向け（？）エンターテインメント作品に登場する女性は神崎二尉と濃姫の2人だけ。濃姫がチョイ役となるのは仕方ないが、神崎二尉は映画全般においてそれなりの重要な役割を果たしている。

しかしそれはあくまでストーリー展開上のことだけ。自衛官という職業とその任務のため（？）、あの美人女優鈴木京香の服装はそのほとんどが陸上自衛隊特有（？）の迷彩服。もちろんそれでも、キリリとした美人はやはり美人だが、それだけではもったいない……？

美人女優大スキ人間の私としては、何かちょっとした別のストーリーをひねり出して、その美貌（プラスアルファ）をアピールできる役割を果たしてもらいたかったと思うのだが……？

2005(平成17)年4月14日記